

1 原尋常小学校跡 (第一原)

明治34年(1901年)に開校し、1~2年生が通学、3年生以上は小畑領の厚南小学校に通学していた。明治41年7月1日から厚南小学校原分教場となり、昭和18年4月、原国民学校として独立開校した。

2 上梅田親水公園 (西園)

平成12年9月、建設省(国土交通省)近代下水道制度100周年記念事業として、国の「甞る水100選」の親水公園として選ばれた。園内には当時の建設大臣扇千景氏の署名記念碑がある。

3 須恵小学校跡 (岡田屋)

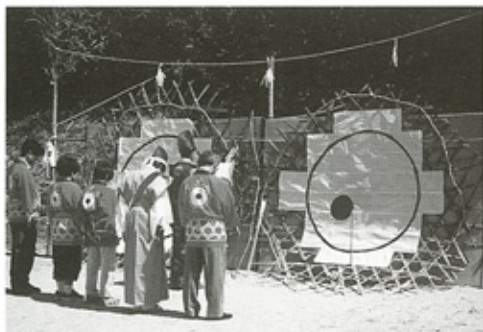
明治5年(1872年)の学制発布で私塾、寺子屋が統合され、明治6年岡田屋公会堂の北側に開校した。明治17年に黒石小学校、開作小学校と合併して小畑領に移り、厚南小学校となった。

4 岡田屋百手祭祭地 (岡田屋)

応仁2年(1468年)頃、この地に疫病が流行して多くの死者が出たため、村人たちは相談の上、松江八幡・八大龍王・大歳の三神に疫病退散を祈願し、鬼に見立てた的を射たところ疫病が治まり村に平和をもたらした。以来、感謝と厄除け、五穀豊穡を祈り毎年3月に的射の神事が奉納されている。(市指定無形民俗文化財)



射手十一名による疫病退散の的射行事



疫病に見立てた的

5 見返り地藏 (岡田屋)

背の高さが105センチで、お顔が大変美しく、お参りした人たちが振り返って見るので、見返り地藏と呼ばれている。享保13年(1728年)頃の作と言われ、当初は本山峠にあったと言われている。

8 吉岡訓導の墓 (叶松)

吉岡藤子先生は明治40年土手町に生まれた。昭和9年9月大阪を襲った室戸台風の際、赴任先の小学校で教室にいた6名の小学生を救い、殉職された。自らを犠牲にして教え子を救った行動は教師のかがみとして大いに賞賛され、戦前の小学校の教科書に載り、山口県立博物館には記念像が建てられた。

13 一銭渡し場跡 (新開作東)

明治中期頃までは厚東川には橋がなく、船賃は大人一人一銭だった。渡し場は地域住民によって管理、運営され、「小島渡し場道路改修費明細帖」(大正5年8月)にその記録がある。

8 尾崎先生の墓 (叶松)

尾崎志津馬先生は、第一原の出身で、尾崎塾を創設。後に須恵小学校の先生として教育に尽力された。この墓碑は先生の教え子によって建てられたもの。

14 蟹塚 (新開作東)

妻崎新開作が新田開発されたが、ある時期、蟹の異常発生により農作物が荒らされ、農民が蟹を大量殺生したため、蟹の供養のために建てられた。

6 剣型模造品出土地 (岡田屋八幡迫)

鉄剣を模造した長さ3~6センチの石製品が昭和38年頃発見された。古墳時代(6世紀頃)の祭祀に用いられたもので、根元にあたる部分に小孔があけられ、ひもや小枝につり下げて使用したものと思われる。現在資料館に保管されている。

9 五輪の墓 (中原)

中世厚東氏の家老を務めた縄田家一族の墓の伝承がある。

15 妻崎神社お旅所 (新開作東)

妻崎神社祭礼のお旅所で、昭和3年に改修された。



剣型模造品

10 尾崎塾、西村塾跡 (第一原)

原校区には、文政2年(1819年)から明治の初めにかけて7つの私塾があったが、その中で唯一当時の面影が偲ばれるのが西村塾の土塀である。

16 庚申塚 (新開作西)

厚南南部はほとんどが開作地帯のため、土地の守り神また水の守り神として庚申塚や猿田彦大神塚が建立されている。特に梅田川沿いに多く、いずれも地域の人たちによって祀り守られている。

11 向山六十六部地蔵 (第一原)

元文4年(1739年)頃の作と言われる。六十六部とは、日本を六十六ヶ国に分けて、一国の霊場につづつ法華経を納めた宗教者で、法師の修行と世を救う意味を持っている。

17 石炭局、石炭会所跡 (妻崎)

幕末、萩藩は産業振興のために撫育方を設置し、特に石炭の増産に努めた。明治元年には石炭局が設置され、石炭の生産と販売を統制した。妻崎の庄屋の屋敷には石炭会所(支所)が置かれ、積み出しや販売を管理した。明治3年妻崎の石炭局を賊徒が襲い、山口藩の官金7千両を強奪し逃走した。やがて一味は捕らえられ東須恵長沢で斬首された。

7 五輪の墓 (叶松)

当初、中原地区にあったものを開発工事によってこの地に集められたもの。中原地区の五輪塔と同時代のものと推定される。

12 水神社 (第一原)

年代は不明だが、原地区の農業水利のため、小野田高泊の堂島神社の祭神を迎えて祀ったとの伝承がある。